ロンドン補習授業校文芸紙
# こんぺいとう 2
令和五年四月二十九日

## 《生活文》 日本語とわたし

アクトン　旧小五

わたしにとって日本語は、アイデンティティーの一部でとても大切です。自分のルーツである日本の人たちとコミュニケーションをとったり、しょうらい自分が親になった時に、自分の子どもにも教えたいと思っています。

日本語を話せることで日本の文化を深く理解することができます。もしわたしが日本語が話せなかったら、今のように日本を自分の一部のようには感じられなかったと思います。自分のアイデンティティーの一部である日本を、自分の一部だと感じられることはとても大切です。

また、日本語が話せないと、母の家族と話せなくなりコミュニケーションがとれなくなってしまいます。今、日本語をやめてしまったら、日本に行ってもなにもわからないで、つまらないと思います。日本には、まだ二才のいとこがいます。いとことは、実際に話したことがないので、楽しみにしています。そのためにも、日本語をやめたくないです。わたしの日本語をもっとつよくできるように、がんばったり努力をしたり、日本語を完ぺきにできるようになれば、日本で働くかのうせいができてくるかもしれません。コミュニケーションがとれれば、いろんなかのうせいが広がります。

さらに、わたしに子どもができたら、子どもにも日本語を教えたいと思います。わたしの子どもがわたしの母とおじいちゃんとおばあちゃんと話せるように、がんばりたいと思います。わたしの子どもも、日本にルーツがあるので、それをうけ入れるためにも日本語も大切だと思います。

わたしは、この三つの理由から、日本語を大切にしていきたいと思っています。みんながちがっていることは、当たり前のことで、とてもいいことです。わたしのとくちょうは、日本にルーツがあり日本語が話せることです。わたしはそのとくちょうを大切にしていきたいと思っています。

【評】言語とアイデンティティーとの関係に焦点を置き、三つの側面から、〇〇〇さんと日本語について深く考え、適切に表現できています。将来、日本語を教えることもしてほしいと思います。

## 《生活文》 私の夢

クロイドン　旧小六

私の夢はイギリス代表の水泳選手になることです。その夢をかなえるためには、たくさんの練習をしないといけません。毎回クラブで三キロ位泳ぎます。練習はきびしいけれど、水泳をやめたいと思ったことは一度もありません。そして、毎回、夏休みに日本に帰る度に、私はＪＳＳのスイミングクラブに通い一生けんめい練習をします。

私は三才から水泳を習い始めました。水泳の試合で勝てるようになってからは、水泳が私の一番好きなスポーツになりました。五年生ぐらいのころからは水泳選手になりたいと思うようになりました。

水泳の練習がたくさんあるので、私は友達に比べたら、遊ぶ時間が少なくなったり、水泳の試合でパーティーに行けなくなったりした時もありました。友達と遊びたかったけれど、水泳は私にもっと大切だと思い、試合でもっとがんばるきっかけになりました。

毎週、水泳の練習に送りむかえしてくれるお父さん、いつもＪＳＳ水泳クラブに参加するために申し込みをしてくれる日本のおばあさん、小さい時に水泳を教えてくれたお母さん、私の夢をかなえるためにサポートをしてくれる家族にとても感謝しています。

【評】好きという気持ちと、プロになりたいという夢があると、厳しい練習も明日への希望になりますね。

## 《感想文》 「カラスのいいぶん」を読んで

アクトン　旧小三

この本の作者は、実はカラスがきらいだった人です。あまりにもきらいだったのでカラスの研究をしてカラスに勝ってみたいという思いがありました。それで、カラスをかんさつして、本を書きました。

かんさつしているうちに、作者はカラスのことを「かわいいな」とか「かわいそうだな」と思い始めます。自ぜんの少ない町の中で、人間といっしょに生きることをえらんだ鳥がどういうくふうをしているか、どんなに頭がいいかをぼくは初めて知りました。カラスは八さいぐらいの子の知のうをもっていると言われています。ぼくは九さいであまりかわりません。

この本を読んで、カラスのことをたくさん知りました。そして、なんでもきらいになる前に、きちんと調べることが大事だと思いました。

【評】カラスの嫌いな作者がカラスの観察をするのはおもしろいですね。カラスについてよく知ることができましたね。また調べる大切さも学びましたね。